

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-162	14-143	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Do neighborhood attributes moderate the relationship between alcohol establishment density and crime? 地域環境は飲酒施設の設置密度と犯罪の発生との関係に影響するか?		
執筆者		
Erickson DJ, Carlin BP, Lenk KM, Quick HS, Harwood EM, Toomey TL.		
掲載誌		
Prev Sci. 2015 Feb;16(2):254-64. doi: 10.1007/s11121-013-0446-y.		
キーワード		PMID
飲酒、犯罪、地域環境		24744254
要 旨		
<p>目的： 飲酒施設の設置密度と様々な犯罪の発生が関連することが確認されてきた。これらの関係に、地域環境がどのように影響するか検証した。</p> <p>方法： ミネアポリスの 87 地域のうち、工業地帯である 3 地域と、1990 年から 2000 年の間に人口が減少した 1 地域を除く 83 地域について調査した。8 種の犯罪（暴行、強姦、強盗、破壊行為、迷惑行為、公衆の場での飲酒、飲酒運転、未成年の飲酒）について調査し、車道距離に対する飲酒施設の件数から設置密度を算出した。地域特性として非飲酒施設、学校、公園、宗教施設、地域活動家、土地柄、危険住宅を影響因子として評価した。各々の犯罪についてベイジアン法によるモデルを作成し、影響因子を調べた。</p> <p>結果： 多変量モデルより、飲酒施設の設置密度は飲酒運転以外の全ての犯罪の発生と有意な正の相関を示した。また地域特性に関しては、ひとつ以上の大学が存在することが、飲酒施設の設置密度と 3 つの犯罪（暴行、迷惑行為、公衆の場での飲酒）の関連性を緩和する唯一の特性であった。</p> <p>考察： 今回の対象地域の中で大学が存在した地域は全体の 7%と少なかったため、解釈には注意が必要である。大学以外に地域環境の影響が見られなかったことは、飲酒施設の増加が、地域特性に関わらず多様な犯罪を増やす可能性があることを示唆している。</p>		